

しかし、やはり、百年一日の如く、ただ同じ事を繰り返していることは、進歩、というコンセプトから考えると、決して望ましい事ではない。

千里国際学園では2008年度、校内に「MYP委員会」を新設しました。MYPって?と思われる方もあるかと思いますが。本校校内誌「インターカルチャ」の104号から107号まで(2006年3月号-10月号)4回連続で国際バカロレアについて書きましたのでそちらを見ていただくと分かっていただけるはず(www.senri.ed.jpでインターカルチャに飛んでください)。

私たちが日々教育活動を共にしている大阪インターナショナルスクール(OIS)の日本語科の大迫奈佳江教諭が本校の研究紀要第12号(2007年)に発表された論文の文章をお借りすると、世界水準の教育プログラムである国際バカロレアとは「21世紀を担う次世代では、個人レベル、国家レベルではなく、世界レベルでものごとを考えられる人間が育っていかなければならない」とする教育であり、また「互いに『同じ』になろうとするのではなく、『違い』を積極的に理解する姿勢」を求める教育です。

OISでは1991年9月の創立当初より国際バカロレアのThe Diploma Programme(中等教育最後の2年間を対象とするプログラム。略称DP)を実施、2004年にはThe Middle Years Programme(略称MYP)、The Primary Years Programme



(略称PYP)の実施が正式に認可され、これによりOISは幼稚園から5年生に対しPYPが、6年生から10年生に対しMYPが、そして11・12年生に対してはDPが提供される、一貫したIBプログラム提供校となっています。

千里国際学園のキャンパスは教育の宝の山。今のところ千里国際学園がMYPを完全導入することをゴールとして考えているわけではありません。しかし、MYPからきつとたくさんのことが学べ、千里国際学園の教育が留まることなく進化していけるヒントがそこにあるように予感するのです。

日本でたった一つの「日本型国際学校」、千里国際学園。  
千里国際学園は進化し続けていきます。

千里国際学園 中等部・高等部  
〒652-0032 大阪府箕面市小野原西4-4-18  
電話 072-727-5070, FAX 072-727-5055  
HP:www.senri.ed.jp, E-mail:admissions@senri.ed.jp



### 大迫 弘和 (おおさこ ひろかず)

千里国際学園 中等部・高等部 校長

1953年東京生。東京大学文学部卒業。1987-91年、イギリスにて私立在外教育施設の設立に参画。父親としての在英時の海外子育て体験を著した『My Name Is』(影書房、1994年)は好著として知られ、海外・帰国家庭に多くの読者を持つ。1991年帰国し、同年開校した千里国際学園中等部・高等部(大阪府箕面市)に勤務。1999年4月に同校校長に就任。



国際バカロレア(IB)の導入を目指す中・高が、最近、急増中です。それらの学校の先生方は、開校以来、IBを導入したインター校と共存してきた千里国際中・高の意見に耳を傾けるべきです。

IBの精神とカリキュラムを生かした「日本型国際学校」は、千里学園と大迫先生の答えです。その実践記録の一端が、このコラムで紹介されてきました。保護者だけでなく、先生方にも読んでいただけたら!

千里国際を訪問したある大学の国際教養学部の関係者が「インターと日本の学校が共存する、本当に理想的な学校ですね」と語っていました。英語での授業のみでリベラルアーツを教える大学教育は、日本の教育の新しい流れです。国際的な競争力を身につけた人材の育成が目的です。千里国際の出番です。

本当に久々振りの、このコラムでは第1回目以来の大迫先生の登場です。超多忙な校長先生に筆を取っていただいた上に、私へのお褒めの言葉までいただきました。感激です。大迫先生、ありがとうございました。